

- 源氏物語講座
 - 講座番号① 源氏物語講座「紫上の発病の原因は六条御息所の物の怪であった」
 - 日 時:5月24日(土)
 - 講 師:伊井 春樹(当館名誉館長)
 - 会 場:研修室1・2
 - 講座番号② 源氏物語講座「紫上の死の噂に人々の動揺、平癒して後の病弱な身と仏道への祈願」
 - 日 時:7月26日(土)
 - 講 師:伊井 春樹(当館名誉館長)
 - 会 場:研修室1・2
 - 講座番号③ 源氏物語講座「紫上の仏道への思いの日々と光源氏の苦慮」
 - 日 時:9月13日(土)
 - 講 師:伊井 春樹(当館名誉館長)
 - 会 場:研修室1・2
- 歴史講座
 - 講座番号④ 羽柴秀吉の四国出兵における地域の情勢
 - 日 時:6月15日(日)
 - 講 師:川島 佳弘氏(愛媛大学法文学部)
 - 会 場:研修室1・2
 - 講座番号⑤ 親子で体験!学ぼう戦時下のくらし
 - 日 時:7月27日(日)【午前】11:00~12:00(小学校1~4年生)
 - 【午後】13:30~14:30(小学校5年生以上)
 - 講 師:松井 寿(当館学芸員)
 - 平井 誠(当館学芸員)
 - 会 場:研修室1・2
- 古文書講座
 - 講座番号⑥ 伊能忠敬測量関係文書を読む 1 —大浦清家家文書より—
 - 日 時:5月25日(日)
 - 講 師:安永 純子(当館学芸員)
 - 会 場:研修室1・2
 - 講座番号⑦ 伊能忠敬測量関係文書を読む 2 —大浦清家家文書より—
 - 日 時:6月29日(日)
 - 講 師:安永 純子(当館学芸員)
 - 会 場:研修室1・2
- 考古講座
 - 講座番号⑧ テーマ展関連講座「絵で見るえひめの遺跡—作成裏話—」
 - 日 時:5月31日(土)
 - 講 師:早川 和子氏(考古イラストレーター)
 - 会 場:多目的ホール
- 民俗講座
 - 講座番号⑨ 「日本刀の歴史ロマン~五百亀記念館の取組み~」
 - 日 時:6月14日(土)
 - 講 師:藤原 英子氏(五百亀記念館学芸員)
 - 会 場:研修室1・2

講座番号⑩ シルクを知らう!体験しよう!
 日 時:7月19日(土)
 講 師:宮弓 理佐氏(西予市野村シルク博物館職員)
 会 場:研修室1・2

■体験講座
 講座番号⑪ 香川県立ミュージアム特別展
 「高松城—海にのぞむ城のものがたり—」を見に行こう!
 定員30名 日 時:6月1日(日)8:00~19:00(予定)
 会 場:高松市
 参加費:10,000~12,000円(予定)
 【締切】5月12日(月)



体験講座
 てづくり天体望遠鏡で
 夜空をみよう! 8/5(火)
 18:00~20:30頃(予定)

天体望遠鏡を自分で作って、
 実際に星や月をみてみよう!
 望遠鏡の使い方・星座の見つけ方も学ぼう!

【講師】近藤 菜美子氏 高橋 智子氏(愛媛県総合科学博物館職員)
 【参加費】¥4,000程度 【応募締切】7月15日(火)
 【対 象】小学生以上(もちろん大人の方も大歓迎!)
 ※小学生の方には必ず保護者の同伴が必要です。
 (同伴の方は保険料のみ頂きます)

定員 20名

受講時のお願い▶ 講座の写真撮影・録画・録音はご遠慮ください。
 申込方法▶ 当館HPの講座申込フォーム・お電話からお申し込みください。
 お問い合わせ▶ 企画普及グループ・歴史文化講座係
 TEL (0894) 62-6222 FAX (0894) 62-6161

展示スケジュール 2025.4-2026.3

2025	4	特別展「誕生50周年ねずみくんのチョコッキ展 なかえよしを・上野紀子 想像力のおくりもの」 2025年4月19日(土)~6月29日(日)	常設展 えひめの歴史と文化 新常設展 密と海—内海清美展—
5	特別展「渡辺おさむスイーツアート かわいいお菓子のミュージアム」 2025年7月12日(土)~8月31日(日)		
6			
7			
8			
9			
10	特別展「ヨシタケシンスケ展かもしれない」 2025年9月20日(土)~11月24日(月・祝)		
11			
12			
2026	1		
2	特別展「伊予の経塚名品展 ~堂々谷経塚と松浜経塚~」 2026年2月14日(土)~4月5日(日)		
3			

ご利用案内

■開館時間 9:00~17:30(入館は17:00まで)
 ■休 館 日 月曜日 第1月曜日は開館、翌火曜日が休館。(下記カレンダーをご参照ください)
 ■観 覧 料

	区分	一般	団体(2割引)
常設展 (テーマ展含む)	大人(高校生以上)	580円	480円
	小・中学生	無 料	無 料
	65歳以上	300円	250円
新常設展		観覧無料	

※観覧料は令和7年4月1日からの新料金です。 ※団体は20名以上です。
 ※未就学児は無料です。
 ※テーマ展をご覧いただくには、常設展観覧料が必要です。

Museum Calendar 2025.4-6

4月							5月							6月																																			
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土																													
			1	2	3	4	5				1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4	5	6	7																						
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30



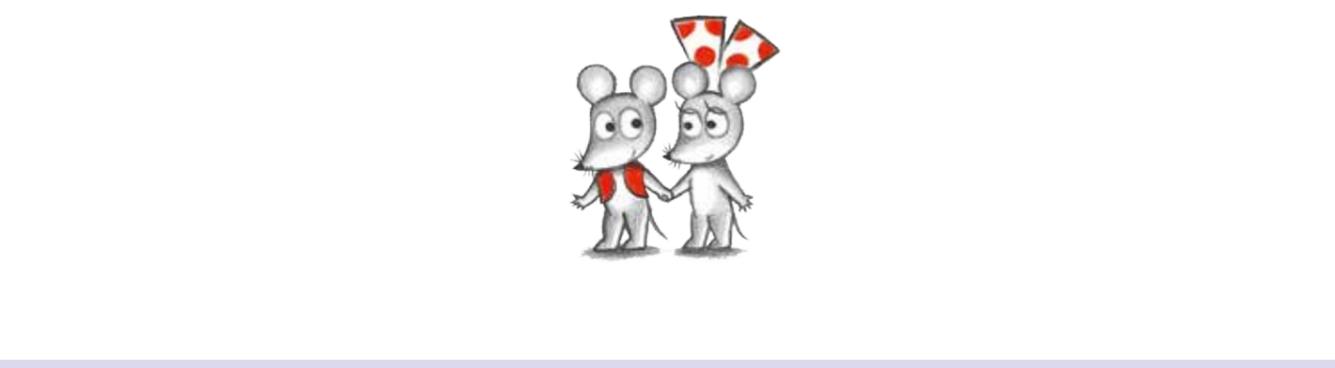
愛媛県歴史文化博物館
 MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE

管理運営:指定管理者 いよつ総合企画
 〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4-11-2 電話:0894-62-6222
 【ホームページ】 <http://www.i-rekihaku.jp>
 ●発行日 令和7年3月31日 ●編集/発行 愛媛県歴史文化博物館

愛媛県歴史文化博物館 No.121
歴博だより
 Museum of EHIME History and Culture News



ぼくは ぼくでよかった
 だって
 ねみちゃんに
 であえたんだもの



誕生 50周年 **ねずみくんのチョコッキ展** なかえよしを・上野紀子 想像力のおくりもの

2025年**4.19**土~**6.29**日 9:00~17:30(入館は17:00まで)

休館日:4/21(月)、28(月)、5/7(水)、12(月)、19(月)、26(月)、6/3(火)、9(月)、16(月)、23(月) 観覧料:大人(高校生以上)1,100円(850円)、65歳以上800円(500円)、小中学生600円(450円) ※()は20名以上の団体料金。特別展観覧券で常設展もご覧いただけます。 主催:愛媛県歴史文化博物館 特別協力:ポブラ社、ねずみくんのチョコッキ展実行委員会 後援:愛媛県市町教育委員会連合会・愛媛新聞社・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・愛媛CATV・ケーブルネットワーク西瀬戸・八西CATV・西予CATV・宇和島ケーブルテレビ・FM愛媛・FMがいや アートディレクション:福島よし恵

考古 海を臨む前方後円墳 (相の谷1号墳)

所蔵：当館
製作：2009年
早川 和子氏 作画

県内最大の前方後円墳である今治市相の谷1号墳(全長約82m)の完成間近の様子を描いた作品。眼前には来島海峡としまなみの島々が広がります。古墳の造営には多くの人々の労働が必要でした。古墳の上では、この古墳を造らせたリーダーが沖を歩き交う船を見つめています。古墳に並べられた埴輪には、東四国の影響を受けたものもあり、近隣地域とのネットワークもあったと思われます。

2段に築いた墳丘には葺石が葺かれ、円筒埴輪が並べられ、後円部墳頂には壺形埴輪が並べられています。本墳は、瀬戸内海の海上交通の要衝に築造された著名な前方後円墳で、現在も墳形を留めています。沖合には、当時の最新の船である準構造船が行き交っています。

この復元画を作成していただくために、早川先生と現地を訪れたのは、今から16年前の2008年秋でした。当時はまだ、「しまなみ海道周辺を守り育てる会」の環境保全活動も行われておらず、雨の中、来島海上交通センターから古墳を眺望し、樹木が茂る墳丘を散策したことを覚えています。早川先生も「このような山の中にある古墳を喜んで案内する研究者を見たことが無い!」と驚嘆されていました。

本墳は、近年の澤田秀実氏(くらしき作陽大学)のご研究により、奈良市に所在する佐紀盾列古墳群の宝来山古墳類型に位置付けられ、同古墳の1/3の築造規格を有することが明らかにされています。また、近隣の丘陵には相の谷2号墳(全長約53m)も残存しています。このような巨大な前方後円墳がなぜ、来島海峡を臨むこの地に築かれたのか?畿内のヤマト王権とどのような関連を持っていたのか?墳丘に並べられた埴輪はどのように作られたのか?この古墳に秘められた謎は、数え出すとキリがありません。是非一度、この早川先生の復元作品を手にとって現在の相の谷1号墳を見学していただきたいと思います。

(専門学芸員 富田 尚夫)

この作品は、テーマ展「絵で見るえひめの遺跡 -早川和子氏原画展-」(会期:4月26日~8月31日)にて展示予定です。



歴史 虚子翁画像 画:中澤弘光、賛:高浜虚子

所蔵：当館蔵
年代：昭和

今回紹介する収蔵品は、俳人・高浜虚子の肖像画です。本作品は掛軸に仕立てられており、画家・中澤弘光が虚子の肖像画を描き、高浜虚子自身が句を添えています。

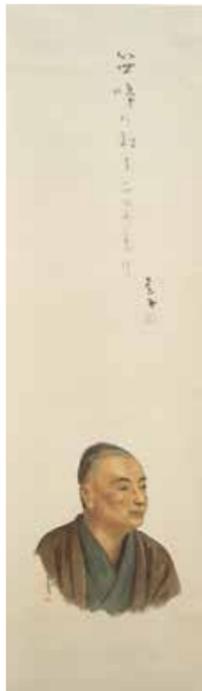
虚子は明治7(1874)年愛媛県松山市出身の俳人・小説家で、本名は清。同級生である河東碧梧桐を通じて正岡子規と知り合い、後に上京して子規に師事しました。俳句雑誌『ホトギス』を主宰し、夏目漱石の『吾輩は猫である』を同誌に掲載したことで知られています。また、虚子は俳人としてだけでなく、写生文小説の分野でも高く評価され、昭和29(1954)年、俳人として初めて文化勲章を受章しました。

虚子の肖像画を描いた画家・中澤弘光は虚子と同年に東京都に生まれました。曾山(大野)幸彦や黒田清輝に師事し、白馬会の創立に参加するなど、西洋画の草創期を支えた画家です。また、大正元(1912)年には、愛媛県出身の杉浦非水らと光風会を結成しました。

さて、本作品の制作年代は不明ですが、虚子がかいた俳句に注目してみましょう。虚子が著した『旬日記』の昭和24(1949)年12月に、この句を確認することができます。「笹啼に對す二日の主哉」という句で、12月18日に翌年の新年俳句会の放送録音のために詠まれました。「笹鳴き」とは冬の季語で、鶯の子どもがさえずりの練習をしている様を表し、「二日」とは正月二日を指します。

絹地に水彩で描かれた虚子の姿は、穏やかで、少しすましたような表情のようにも見えます。この肖像画は句が詠まれた1949年以降から、虚子が死去する1959(昭和34)年の間に描かれたと考えられるため、75歳以降の姿だと思われます。なお、中澤は、虚子の喜寿(77歳)の時に油絵の肖像画を描いていることから、本作品もその一環として描かれたものかもしれません。

(主任学芸員 甲斐 未希子)



令和7年度テーマ展

「絵で見るえひめの遺跡 -早川和子氏原画展-」

令和7年

4月26日(土)~8月31日(日)

会場：考古展示室

考古イラストレーター早川和子氏は、全国の遺跡を訪れ、遺跡復元画を作成され、その作品は奈良文化財研究所をはじめ、全国の埋蔵文化財センター・博物館で活用されています。本展では、愛媛県内で作成されたイラストの原画約30点と主要な遺跡出土遺物を紹介します。県内の遺跡・考古学を身近に感じていただければ幸いです。



瀬戸内を見下ろす丘の上の弥生のムラ・西条半田山遺跡(早川和子氏作画)

ゴールデンウィークイベント

よろい武者に
へんしん!



時間 10:00~11:30/13:00~15:30
受付は 9:30~, 最終受付 15:00
定員 各日先着 50名
参加費 常設展が特別展の観覧券が必要
会場 オリエンテーションコア(展示ゾーン内)

よろい兜を
つくろう



時間 10:00~11:30
13:00~15:30
材料が無くなり次第終了
参加費 650円(友の会会員 600円)
会場 エントランスホール

ハーバリウムを
つくろう



時間 10:00~11:30
13:00~15:30
材料が無くなり次第終了
参加費 600円(友の会会員 550円)
会場 エントランスホール

れきはくのおしあと



今年もテーマ展「おひなさま」の関連イベントとしまして「十二単着付け体験」「おひなさまにへんしん」を開催いたしました。

実は皆さんがよくご存知である十二単は正式な名称ではありません。正式には「女房装束」や「五衣唐衣裳」と呼ばれます。また、実際は十二枚重ねて着付けているわけではありません。当館で用意している十二単は白衣に濃色の長袴をつけた上に、単、五衣、打衣、表着、唐衣、裳を着付けます。

「おひなさまにへんしん」ではお子さまが袴に袷という着物を着用する平安時代の貴族女性の略装で袴姿と呼ばれます。十二単の着付けを体験された方も袴姿を体験された方もご家族の方達もかわいらしい姿を見て、笑顔になり、楽しそうでした。

